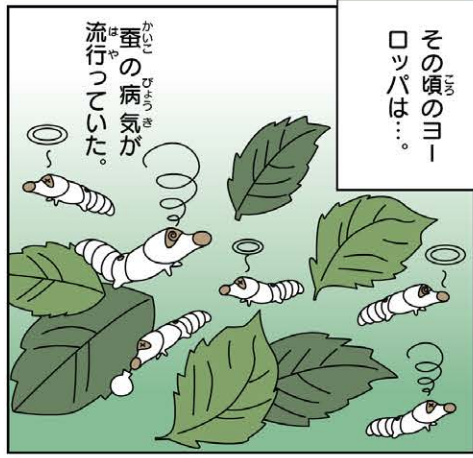


遠い外国から海を越えて日本へやってきた黒船。日本に外国と付き合うよう強く求めた。

江戸時代の日本は外国とほとんど付き合いがなかったんだ。だけど、黒船がきっかけとなって、安政6年（1859）から外国と貿易を始めるようになったよ。



ドコカニ良い生糸ハナイモノカ。

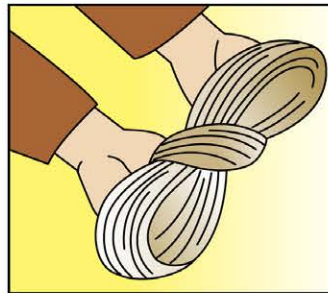


蚕の病気が流行っていた。

その頃のヨーロッパは…



まかせてください！日本には生糸がたくさんあります。



こうして生糸の輸出が始まった。



たいへんだ～

外国からの注文はどんどん増えていった…

日本の生糸は、ヨーロッパに輸出され、あっという間に人気が出た。

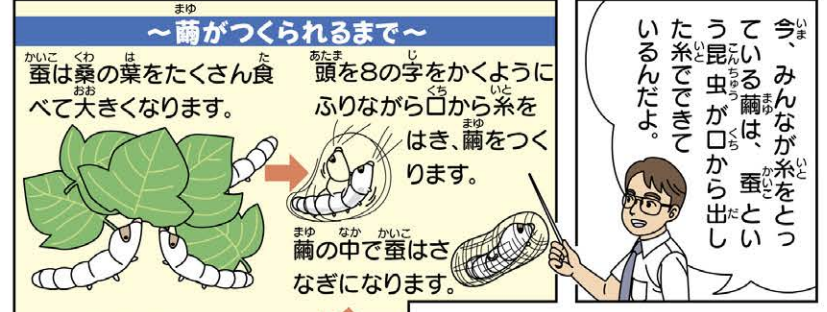


座繰りの体験授業

はい、みんなちょっと聞いて！

でも美味しくなるとおもしろいよ。

むずかしいなあ～



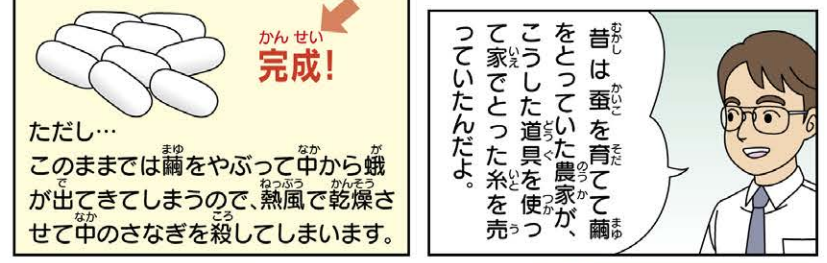
～繭がつくれるまで～

蚕は桑の葉をたくさん食べて大きくなります。ふりながら口から糸をはき、繭をつくりまわります。

繭の中で蚕はさなぎになります。



今、みんなが糸をとっている繭は、蚕という虫が口から出した糸でできています。

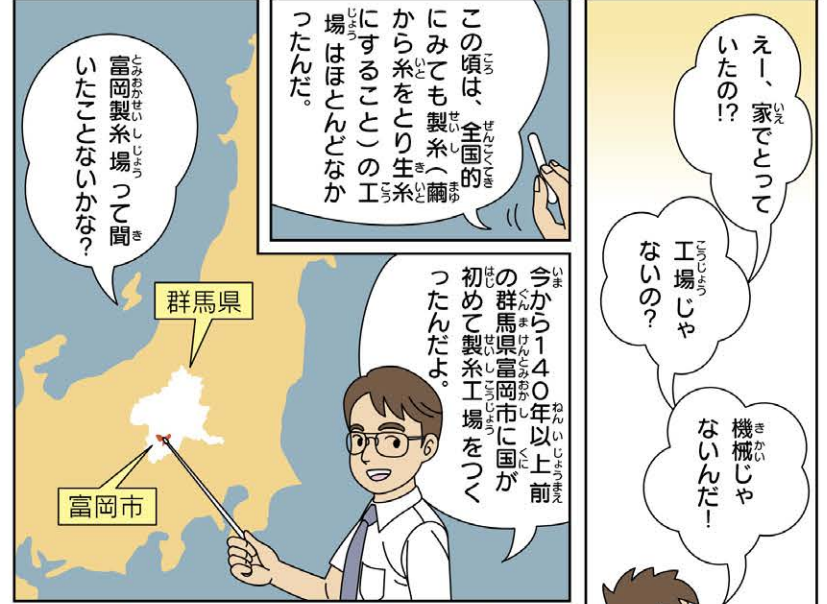


完成！

ただし…このままでは繭をやぶって中から蛾が出てきてしまうので、熱風で乾燥させて中のさなぎを殺してしまいます。



昔は蚕を育てて繭をとっていた農家が、こうした道具を使って家でとった糸を売っていたんだよ。



富岡製糸場って聞いたことないかな？

群馬県

富岡市

この頃は、全国的にも製糸（繭）から糸をとり生糸にするこの工場はほとんどなかったんだ。

今から140年以上前の群馬県富岡市に国が初めて製糸工場をつくらせたよ。



えー、家でもっていたの!?

工場じゃないの？

機械じゃないんだ！

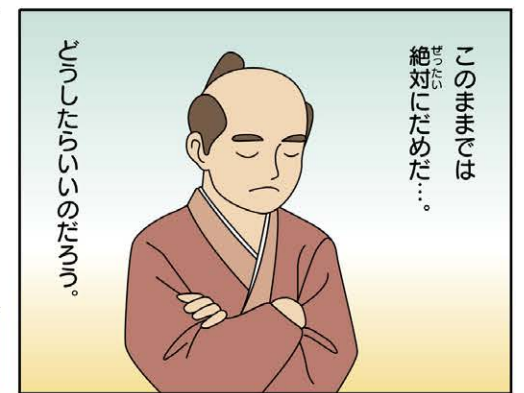
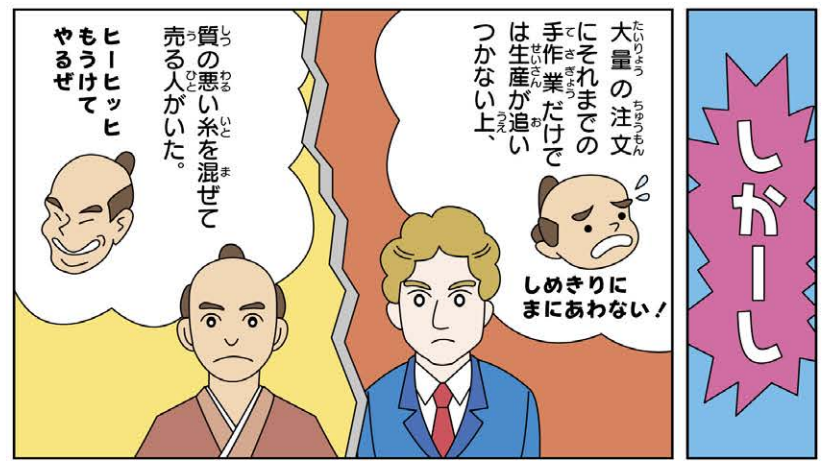
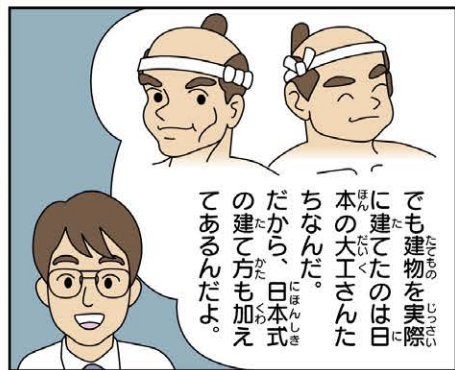
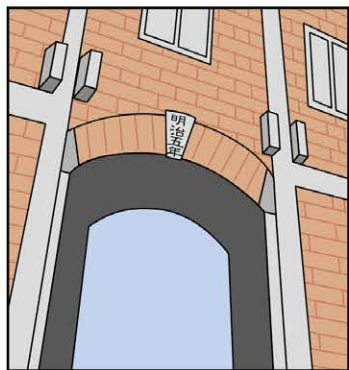
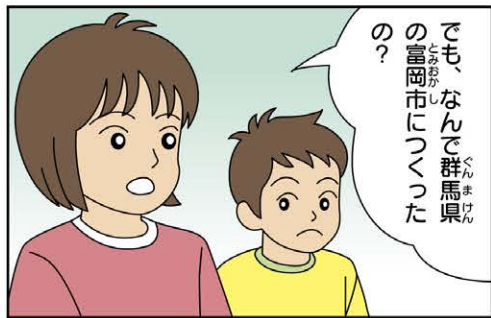
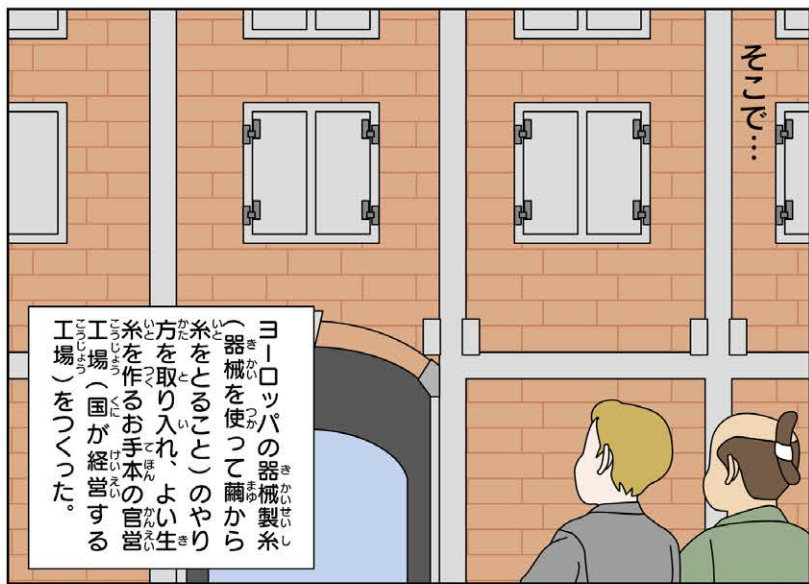


トカカ？

知らない。

私も？

じゃあ、富岡製糸場の話をしようか。





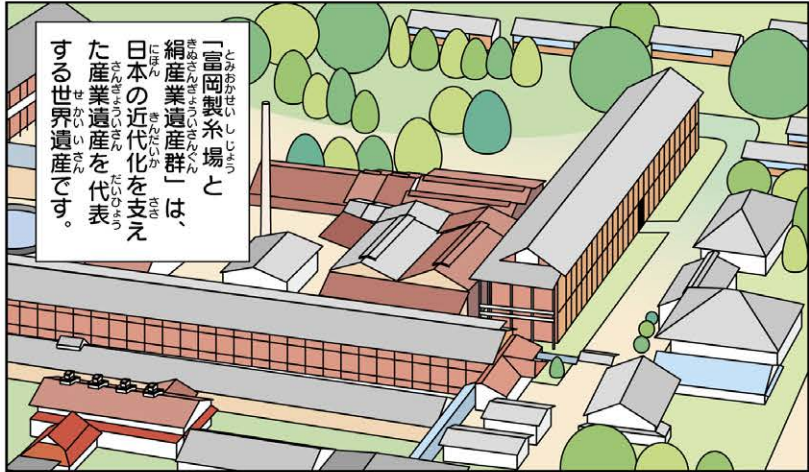
おまけ

世界遺産って何？
世界遺産とは、国際社会が協力して世界中にあるとても貴重な文化遺産や自然遺産を大切に守って伝え残していこうという取り決めです。

世界遺産に登録されている文化遺産の中には、壮麗な宮殿や城、何千年も前の王の墓といったものだけではない。



近代の産業を支えた工場や炭鉱なども登録されています。



「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本の近代化を支えた産業遺産を代表する世界遺産です。

利用される自然の冷風を利用して保存した風穴の中でも日本最大の大きさであった荒船風穴（下仁田町）

「富岡製糸場と絹産業遺産群」のなかで富岡製糸場以外には何があるの？

近代的な養蚕農家の代表である田島弥平旧宅（伊勢崎市）

養蚕技術の開発とそれを広める伝習学校であった高山社跡（藤岡市）

これらはすべて群馬県にあるよ。どんなところか、実際に見に行ってみよう。

富岡製糸場の建設がきっかけで、日本全国で、器械を使った工場が建設されるようになり、日本の製糸業は大きく近代化していったんだ。

富岡製糸場ができてから37年後に日本は、世界最大の生糸生産国・輸出国になった。

最初は西洋から近代的な器械製糸技術を取り入れ、さらに国内で改良・開発を進めた製糸技術は、

今度は日本から世界へ広がっていく。

絹を使ったファッションや文化が豊かになった。

そのおかげで、それまでお金持ちや身分の高い人しか使えなかった絹を一般の人でも使えるようになり、

富岡製糸場は、原料の繭の大量生産を実現させた他の3資産と共に、日本が高品質な生糸の大量生産に貢献した19世紀後半から20世紀の日本の養蚕・製糸分野における技術革新と、世界との交流を示す場所が良好に残っていることから、世界的に価値が認められ、2014年6月に世界遺産に登録されたんだ。

おいしい